

生保産業で働くことの魅力を学生たちに語る

生保労連では、生保産業や労働組合の役割について理解浸透・拡大をはかるため、連合の関連団体・教育文化協会が実施する「連合寄付講座」等に講師を派遣しています。10月29日には法政大学で山本副委員長が、10月31日には國學院大學で日下部書記長が講義を行いました。その中で、生保産業における仕事

や働き方について紹介するとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現等、より良い職場づくりに向けた取組みについて、自身の経験談や生保労連の取組み等を交えて説明しました。また、リーフレット「自分らしく生きるために！」を活用し、学生たちに若いうちから生活設計を考えることの重要性を伝えました。



法政大学での様子

「総労働時間の短縮とワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み」をテーマに、生保産業全体で総労働時間短縮に向けた取組みが進められている状況を説明するとともに、ワーク・ライフ・バランスの必要性等について、生保労連の取組み等を交えて分かりやすく説明しました。



▲取組み事例を説明する山本副委員長

学生の感想

- 生命保険は生きていく上で何かあった時の安心を与えてくれるものであり、私たちの生活に欠かせないものだと感じた。
- 産業全体でワーク・ライフ・バランスの実現に向けて様々な取組みを行っていることが分かり、生命保険会社で働くことに興味を持った。
- 将来、充実した生活をおくるためにも、若いうちから自助努力が必要だと感じた。

國學院大學での様子

「生命保険産業における仕事・働き方・より良い職場づくりに向けた取組み」をテーマに、生保産業で働くことの意義や働きがい等について説明するとともに、働きやすい職場づくりに向けた具体的な取組み事例を紹介し、学生たちに「働くこと」について考えるきっかけを提供しました。



▲学生たちに語る日下部書記長

学生の感想

- 生命保険の仕組みが相互扶助によるものであることが分かり、社会的役割が大きいのだと感じた。
- これまで生保産業は事務的な仕事が多いと思っていたが、実際は仕事の幅が広く、活躍できる様々なフィールドがあることが分かった。
- 「挫折のたびに成長がある」という言葉に感動した。学生のうちから色々なことに挑戦しておくことが大切だと思った。